

令和8年度
シラバス

教科・科目	地理歴史・歴史総合	単位数	2
-------	-----------	-----	---

学年・クラス	1学年（ 必修 ・選択）	担当者	森下 貴秋
使用教科書	山川出版社 わたしたちの歴史 日本から世界へ 改訂版		
使用副教材	帝国書院 明解 歴史総合図説 シンフォニア 山川出版社 わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート 改訂版		

目 標

歴史総合は、日本の歴史と世界の歴史を関連づけながら学習する科目である。過去のできごとについて学ぶことを通じて、世界でおきている紛争や地球温暖化、環境問題、貧困、経済格差などについて「いつ」「どこで」「どのように」生じたかについて学び、これからの生き方を考える。

また、今を生きる我々が向かっている方向が正しいかどうかについて考えるとともに、先人達が命をかけて築き上げてきた遺産を一人一人が責任を持って次世代に伝えていく使命を持って学ぶ。

授業の内容・進め方

内 容：近現代史を中心とする世界の歴史の展開について、課題意識を持って学習します。

進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことについて深く調べ、自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭での予習・復習が必要です。

考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、資料活用の技術が試されます。

観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解して自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	近現代の歴史の変化に関わる事象について世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して概念などを活用して多角的・多面的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。	近現代の歴史に関わる事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 多角的・多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に関する愛情、他国への尊重についての自覚を深めている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評 価 項 目	定期考査（年4回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

- ・ **観点別評価** 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ **評価・評定** 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
前期	4	1 近代化と私たち	1 18世紀の世界とアジア	18世紀から20世紀初頭の歴史を学び産業社会と国家形成を背景として人々の生活や社会のありかたが大きく変わった時代の基本的な知識や技能を身につけている。	18世紀から20世紀初頭の歴史を学び産業社会と国家形成を背景として人々の生活や社会のありかたが大きく変わった時代を資料等に基づきながら探究している。	18世紀から20世紀初頭の歴史を学び産業社会と国家形成を背景として人々の生活や社会のありかたが大きく変わった時代について資料等などを探究しまとめようとしている。	
			2 産業革命				
			3 アヘン戦争と日本				
	5		4 日本の開国	「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」という6つのテーマに沿って、同時代史を比較しながらその結びつきについて基本的な知識を身につけている。	「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」という6つのテーマに沿って、同時代史を比較しながらその結びつきについて、自分のテーマを設定し表現することができる。	「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」という6つのテーマに沿って、同時代史を比較しながらその結びつきについて、自分のテーマを設定し解決に向け探究しようとしている。	
			5 日本開国期の国際情勢				
			6 開国後の日本社会				
			7 市民革命と国際統合				
	前期中間考査						
	7			8 明治維新	鎖国から開国までの歴史的背景についての基本的な知識を身につけている。また、日本の近代化の経緯や外交他国からの影響を受けどのようにして憲法制定にたどり着いたのかについて理解することができる。他国とのつながりに	鎖国から開国までの歴史的背景についての基本的な知識をもとに日本の近代化の経緯や外交、他国からの影響を受けどのようにして憲法制定にたどり着いたのかについて論ずることができる。他国とのつながりに	鎖国から開国までの歴史的背景についての基本的な知識をもとに日本の近代化の経緯や外交、他国からの影響を受けどのようにして憲法制定にたどり着いたのかについて主体的に探究することができる。他国とのつながりに
				9 富国強兵と文明開化			
8			10 日本の明治初期の外交	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から歴史を紐解きまとめることができる。	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から歴史を紐解きまとめることができる。	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から主体的に歴史を紐解きまとめることができる。	
			11 大日本帝国憲法の制定				
			12 産業革命				
9			13 帝国主義	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から歴史を紐解きまとめることができる。	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から歴史を紐解きまとめることができる。	において日本はどこに向かい、何をめざしたかについて「革命」「戦争」という視点から主体的に歴史を紐解きまとめることができる。	
			14 日露戦争と韓国併合				
		○琉球と蝦夷地 ○江戸時代 ○国民国家と多民族国家	「北は北海道から南は沖縄まで」という日本の範囲をあらわす表現は近代以前にもあてはまるものであったかについて調べ、歴史的背景を理解することができる。江戸幕府の統治や社会、開国までの状況についての知識を身につけることができる。「1つの民族=1つの国家」という考えの歴史を知ることができる。	「北は北海道から南は沖縄まで」という日本の範囲をあらわす表現は近代以前にもあてはまるものであったかについて調べ、歴史的背景を学ぶ、まとめることができる。江戸幕府の統治や社会、開国までの状況についての知識をもとに相手に伝えることができる。「1つの民族=1つの国家」という考えの歴史的背景について表現できる。	「北は北海道から南は沖縄まで」という日本の範囲をあらわす表現は近代以前にもあてはまるものであったかについて主体的に調べ、歴史的背景をまとめることができる。江戸幕府の統治や社会、開国までの状況についての知識をもとに伝えることができる。「1つの民族=1つの国家」という考えの歴史的背景について表現することができる。		
			前期末考査				

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	10	2 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 大衆運動 2 第1次大戦 3 第1次大戦と日本	20世紀初頭から1950年代にいたるまでの同時代史の歴史について「世界大戦」を軸に基本的な知識や技能を身につけている。	20世紀初頭から1950年代にいたるまでの同時代史の歴史について「世界大戦」を軸にその原因や経緯、結果について探究している。	20世紀初頭から1950年代にいたるまでの同時代史の歴史について「世界大戦」を軸に原因や経緯、結果について主体的に探究しようとしている。
			4 ロシア革命 5 社会運動 6 国際協調 7 アジアの民衆 8 大量生産消費 9 世界恐慌 10 第二次大戦	「政治」「経済」「文化」における国際的な結びつきについて各国の歴史的な背景を理解したうえで世界恐慌後、第二次世界大戦にどう向かっていったかについての知識を身につけている。	「国際関係の緊密化」「アメリカ合衆国とソ連の台頭」「植民地の独立」「大衆の政治的・社会的地位の変化」「生活様式の変化」の5つのテーマについて、資料をもとに探究している。	「国際関係の緊密化」「アメリカ合衆国とソ連の台頭」「植民地の独立」「大衆の政治的・社会的地位の変化」「生活様式の変化」の5つのテーマについて、資料をもとに主体的に探究しようとしている。
	後期中間考査					
	12	3 グローバル化と私たち	1 第3世界 2 冷戦 3 55年体制 4 高度経済成長 5 ベトナム戦争 6 経済構造	世界大戦後の冷戦期に、アメリカ合衆国とソ連は、核兵器を中心とした軍備の拡張をどのように行ったかについて、基本的な知識を身につけている。 日本を含めアジア諸国がどう変化したかについて理解することができる。	世界大戦後の冷戦期に、アメリカ合衆国とソ連は、核兵器を中心とした軍備の拡張をどのように行ったかについて、テーマを設定し探究している。 日本を含めアジア諸国がどう変化したかについて資料をもとに探究している。	世界大戦後の冷戦期に、アメリカ合衆国とソ連は、核兵器を中心とした軍備の拡張をどのように行ったかについて、テーマを設定し探究している。 日本を含めアジア諸国がどう変化したかについて資料をもとに探究しようとしている。
			7 アジアの経済成長 8 社会経済 9 冷戦の終結 10 地域統合 11 現代社会の諸課題	第二次世界大戦後の世界で、アジア、アフリカ諸国が連携する動きが見られた背景についての基本的な知識を身につけている。 1970年代から1990年代に急速な経済成長を実現した国について、歴史的背景等の知識を身につけている。	第二次世界大戦後の世界で、アジア、アフリカ諸国が連携する動きが見られた背景についてのテーマを設定し探究している。 1970年代から1990年代に急速な経済成長を実現した国について、歴史的背景等について探究している。	第二次世界大戦後の世界で、アジア、アフリカ諸国が連携する動きが見られた背景についてのテーマを設定し探究しようとしている。 1970年代から1990年代に急速な経済成長を実現した国について、歴史的背景等について探究しようとしている。
	後期期末考査					
	3	3	○大衆化としてのスポーツ ○日本の経済成長 ○日本の政府開発援助 ○国連平和維持活動	「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食糧と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」の知識を身につけている。	「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食糧と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」の知識を身につけている。	「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食糧と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」について主体的に探究しようとしている。